

# 日本、アジアのシマアオジ保全

活動地域  アジア広域、日本

ひろげる助成

3年目

調査研究

シマアオジセンサスへの参加国数 **9国**

越冬地域のWS・会合への参加者数 **200人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **80%**



中国鳥類学会議の円卓会議参加者 (2019年8月)

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

標識放鳥した個体はこれまで調査地以外で再確認されておらず、北海道のシマアオジも減少の一途だが、事業期間も長いとは言えず、今後に期待したい。

### ■ 工夫した点

越冬地域のワークショップを通じ、2019年～20年の越冬期に9か国が参加する生息調査を実現した。アジアの小鳥類モニタリングとしては初めての画期的な試みとなった。

## 課題

シマアオジはユーラシア大陸で最も多い鳥類の一つであったが、現在では絶滅の危機に瀕している。シマアオジの国際保全計画を立案するとともに、早急な保全対策を実施する。

## 目標

シマアオジの国際保全計画の立案、北海道及びサハリン個体群の安定・回復(に必要な調査)、越冬地の状況把握、シマアオジなど渡り性陸鳥類の密猟対策・保全への理解促進。

## 活動内容と成果

本事業はシマアオジの学術的研究からスタートした。当初の目標の一つであった渡り経路は未だ解明されていないが、DNA解析では北海道、サハリン、モンゴルの個体群が遺伝的に等しいことを確認し、人為的導入の可能性が示唆された。国際保全行動計画策定には分布域の関係各国が様々な形で参加し、活動を通じて各国のシマアオジ保全状況は次第に改善されている。越冬地域のワークショップは、渡り性小鳥類の保全やモニタリング活動への学生の参加を促し、また2019年には、越冬分布域の主要国が参加する生息調査がスタートしている。



カンボジアでの行動計画策定ワークショップ

## 全助成期間の活動を振り返って

本事業では、シマアオジをはじめ渡り性の小鳥類保全でアジア各国の連携協力を実現した。保全の計画段階では渡りルートや生息分布など基礎調査が必要とされ、本事業のサハリン調査は良い成果を得るとともに日本とロシアの協力にも繋がった。渡り性小鳥類の減少がアジアで広く認識されることは、小鳥類が有効な環境指標であることから重要で、本事業による協力が国際的な環境保全ネットワークの強化に繋がるものと期待している。



シマアオジ、香港で (©J. Kwok)

〒103-0014  
東京都中央区日本橋蛸殻町1-13-1 ユニゾ蛸殻町北島ビル1階  
電話：03-6206-2941  
HP：http://tokyo.birdlife.org/



## 今後の展望

渡り性小鳥類(陸鳥類)のモニタリングを将来的にアジア各国へと広げることを目指し活動を継続していきたい。また小鳥類の減少要因となっている農業等についても注視していきたい。これまで20～30年の間、湿地を利用する水鳥では良好な保全ネットワークが存在しているが、一方で森林や草原・農地とそこに生息する鳥類では同様のフレームワークが存在しておらず、このギャップを埋めるためにパイオニアとして活動を進めたい。